

## 八ヶ岳 中山尾根

小暮

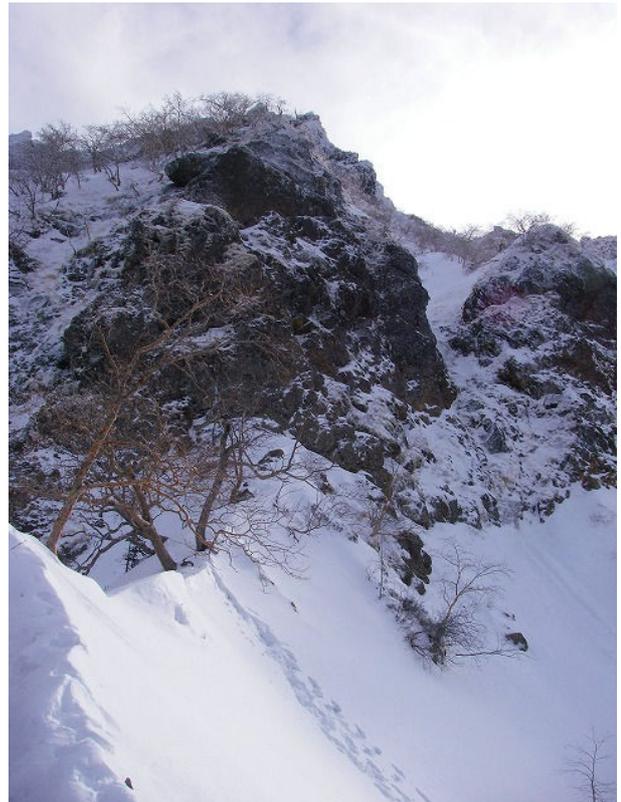
【日時】2007年2月17日(土)～18日(日)

【メンバー】笹川(L)、小暮

ひとつの目標としていたルートに行くことができた。八ヶ岳西面の人気ルートの中山尾根に行ってきました。冬の岩登りとしてのピッチグレードはそれなりに高いところだけに結構緊張した。日曜日は天気が崩れるということだったので、朝早く美濃戸を出て行者小屋をベースとする。

中山乗越から樹林帯を1時間登り、下部岩壁に到着。いよいよ登攀開始である。1P目、小暮リード。あとからガイドを良く読むと右から回り込むように登ると易しかったらしい。我々は正面にペツルアンカーが2本見えたので直上してしまった。難しくて思わずA0となってしまう。岩をあがると雪の斜面になるので、ピッケルを振って左のテラスへとでる。2P目は笹川リード。難しい凹角だ。左の草付からも巻けるようだが登ることにする。岩の表面にはベルグラとなった雪が付着しており手の置き場所が難しい。一步あがったところでカムを持っていればランニングがとれたが、持っていなかった。微妙な登りで上に抜ける。その先は雪稜となり200m位続いている。容易なのでコンテの体制で越えた。

続いて上部岩壁。小暮リード。トポによると凹角を登るようがあるので、取り付くが悪い。基部のグラグラのハーケンを打ち直し、微妙なバランスで立ち込むが残置ピンが無い??全くあせってしまう。どうやら間違えたようだ。傾斜のためか降りるのも怖くなってしまった。必死に片手でハーケンを打つ。やば



かった。またも微妙なバランスで立ちこみ左にトラバースすると小テラス。ここはハーケン連打してあり、やっと正規ルートに戻れた。正面のハング気味の凹角は難しいが手足の置き場所が分かりやすいので助かった。その上の雪壁を抜けて灌木でビレイ。後から別のガイドを精読すると右へ15mトラバースしてから取り付くとあった。そのように行けば残置ピンもあるのだろう。本来なら小テラス上の凹角が本ルートの核心らしいが、かえってそれよりも難しいところをあがってしまった。

その先は雪稜となる。やや硬い雪だが問題ない。3m程の岩場を抜けると鶏冠状岩稜に着く。あとはバンドをトラバースすれば登山道の稜線へ抜けた。目標ルートを登れて満足感でいっぱい。気持ちよく歩いて行者小屋のベースに戻った。

翌日は南岸低気圧で天気が崩れたので、予定していた赤岳ショルダーリッジを取りやめて下山した。今回は、ルートを間違えて難しいところを登ってしまったが、楽しい登攀であった。次回行くことがあれば、ルートも分かったのでスムーズにいけると思います。

#### 【行程】

2/17 美濃戸口(6:40)～行者小屋 BC(8:45/9:15)～中山尾根取付(10:05/15)～稜線(13:45)～BC(15:00)

2/18 BC(8:30)～美濃戸口(10:30)

【地図】 八ヶ岳西部、八ヶ岳東部

